

埼玉県

定数：14名

立候補者数：15名



氏名 駒井 敦

氏名ふりがな こまい あつし

都道府県士会 埼玉県

年齢 36

勤務先名称 霞ヶ関南病院

日本理学療法協会活動歴

代議員（2024～）、介護予防領域業務推進部会 部会員（2024～）

都道府県理学療法士（協）会活動歴

職能局 医療保険部員（2016～2021）、地域包括ケア推進部員（2020～2022）、業務推進部員（2023～）、地域包括ケア推進部長（2023～）
教育局 認定・専門研修部員（2019～）、登録・認定・専門理学療法士管理部員（2021～）、後期研修部長（2021～2023）

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

このたび、代議員選挙に立候補いたしました、駒井敦と申します。
私は2016年より、職能局をはじめとした県士会の複数の部局に関わり、県内の多くの先輩・仲間とともに活動してまいりました。その中で大切にしてきたのは、「理学療法士一人ひとりの声を、制度や仕組みにどう反映させるか」という視点です。
職場では、地域リハビリテーション・ケア サポートセンターの職員として、市町村や地域包括支援センター等への後方支援業務に携わっています。また県士会では、地域包括ケアに関与する理学療法士の育成を目的とした研修会の企画等を行ってきました。
さらに2024年度からは、日本理学療法士協会「介護予防領域業務推進部会」に参画し、介護予防・地域ケア会議推進リーダー制度の見直しに携わっています。現場の実情と制度との“ずれ”を少しでも解消し、県士会会員の皆さまが地域活動に関わりやすくなる仕組みづくりを目指して取り組んでいます。
これから2040年に向け、理学療法士を取り巻く環境は、医療・介護制度、働き方、地域との関わり方など、あらゆる面で大きく変化していきます。
だからこそ、先人が築いてこられた基盤を大切にしながら、会員の半数以上を占める20～40代の世代の声も反映し、多様な働き方や新しい活動の形を後押しできる協会・県士会であることが重要だと考えています。
若輩者ではございますが、これまでの経験も踏まえ、皆さまとともに理学療法士の未来をつくる一助となれるよう尽力いたします。
ご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



氏名 大沼 亮
氏名ふりがな おおぬま りょう
都道府県士会 埼玉県
年齢 38
勤務先名称 目白大学保健医療学部

日本理学療法協会活動歴

2024年4月～公益社団法人日本理学療法士協会, 代議員
2023年3月～日本理学療法士協会雑誌, 査読委員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2025年4月～理学療法－臨床・研究・教育, 編集部 部長
2023年7月～理学療法－臨床・研究・教育, 編集部員
2020年11月～理学療法－臨床・研究・教育, 査読員
2023年10月～2025年4月 学術局研究推進部, 研究支援者

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2025年3月～日本神経理学療法学会, 第8回SIGs 2026, 集会長
2024年4月～一般社団法人日本神経理学療法学会, 理事
2022年12月～2025年1月第13回日本支援工学理学療法学会学術大会,
準備委員長
2022年10月～2024年3月日本神経理学療法学会, 評議員
2021年12月～2023年10月第21回日本神経理学療法学会学術大会,
準備委員
2020年10月～2021年2月第21回日本神経理学療法学会
サテライトカンファレンス, 運営委員

立候補の趣旨

目白大学の大沼と申します。2024年より代議員を2年勤めさせていただき、2期目の立候補となります。県士会や学会連合においては、それぞれ学術局編集部長、学会理事として会員の皆様のお役に立てるよう努力して参りました。その中で、これからは担う若い会員の皆様の声を多く聞くことが出来、このような意見を協会の運営に届けることが重要であると考えております。また、理学療法士を取り巻く環境や、組織率の低下など多くの問題がありますが、理学療法士協会が魅力的な組織となっていくために、協会の運営が適切に進むよう、しっかりと関わっていきたく思っております。

前期と変わらず責任を持って取り組むことを皆様に約束致します。理学療法士がよりよい環境となっていくように、皆様と悩みながら尽力したいと思っております。引き続き、ご支援の程どうぞよろしくお願い致します。



氏名 井上 和久

氏名ふりがな いのうえ かずひさ

都道府県士会 埼玉県

年齢 52

勤務先名称 埼玉県立大学保健医療福祉学部

日本理学療法協会活動歴

2009. 7～2014. 3 : 日本理学療法士協会・代議員
2010. 5～2011. 6 : 生活環境支援理学療法研究部会・協力員
2010. 12～2015. 3 : 第49回日本理学療法士協会全国学術研修大会・
準備委員長
2011. 7～2013. 6 : 生活環境支援理学療法研究部会・運営幹事
2011. 8～2013. 3 : 第31回関東甲信越ブロック理学療法士学会・副学会長
2014. 6～2021. 6 : 日本地域理学療法学会・運営幹事
2015. 6～2021. 6 : 日本予防理学療法学会・運営幹事
2018. 7～2021. 3 : 日本地域・支援工学・教育合同理学療法学会学術大会
2020. 合同学術大会長
2020. 6～現在 : 日本理学療法士協会・代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2003. 7～2005. 6 : 埼玉県理学療法士会（理事・東部ブロック）
2005. 7～2009. 6 : 埼玉県理学療法士会（理事・学術・教育局長）
2009. 7～2013. 6 : 埼玉県理学療法士会（理事・副会長）
2023. 7～現在 : 埼玉県理学療法士会（表彰委員会・委員長）

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2021. 4～現在 : 日本地域理学療法学会（理事・副理事長）
2021. 6～現在 : 日本理学療法学会連合（財務委員長）

立候補の趣旨

今回立候補に至った経緯として、我々理学療法士が社会に貢献し活躍することが重要な責務と感じたため立候補させていただきました。
今後も日本理学療法士協会として、より重要な指針（職能的な方向性）を示すことが重要と考えています。また、理学療法士の活動の場等を広げ理学療法士が国民に対してより貢献できる機会を拡大し、少しでも関わる事が出来ればと思い立候補させていただきましたので何卒宜しくお願い申し上げます。



氏名 水田 宗達

氏名ふりがな みずたそうたつ

都道府県士会 埼玉県

年齢 54

勤務先名称 埼玉県総合リハビリテーションセンター

日本理学療法協会活動歴

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成25年度～28年度 事務局長
平成29年度～令和7年 事務局長・副会長
令和7年～ 会長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

このたび、日本理学療法士協会代議員選挙に立候補いたします水田宗達と申します。私は昨年6月より埼玉県理学療法士会の会長を務め、日々多くの会員の声に直接触れてきました。現場で働く理学療法士が抱える課題、組織運営に対する期待、そして将来への不安。その一つひとつに向き合う中でこの声を確実に日本理学療法士協会へ届け、意思決定に反映させることこそ、私に課せられた責務であると強く感じています。

埼玉県理学療法士会では、理事の皆さんと共に来年度の重点課題を整理し、会員拡大、組織体制の再構築、学術・教育活動の充実、社会貢献と職能拡大、予算の戦略的配分など、多岐にわたるテーマに取り組んでいます。これらはいずれも県士会だけでは完結せず、日本理学療法士協会との連携が不可欠です。特に、会員拡大、学術教育活動の充実、職能の拡大などは、全国的な方向性と歩調を合わせることで初めて実効性を持つ取り組みです。

私は平成25年から令和7年までの12年間、埼玉県理学療法士会の事務局長として組織運営の最前線に立ち続けてきました。会員一人ひとりの切実な声と、職能団体が抱える構造的課題の両方を見つめてきた経験は、私の大きな財産です。現場のリアルを理解し、組織の仕組みを熟知しているからこそ、協会の議論に具体性と実効性をもたらすことができると確信しています。

埼玉県理学療法士会の会員は日本理学療法士協会の会員でもあります。だからこそ、埼玉県理学療法士会の課題はそのまま日本理学療法士協会の課題でもあります。私は、現場の声を丁寧に拾い上げ、協会の意思決定の場へ確実に届ける代議員でありたいと考えています。

理学療法士がより誇りを持って働ける未来をつくるために、皆さまと共に歩んでまいります。どうかご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



氏名 倉林 泰士郎
氏名ふりがな くらばやしたいしろう
都道府県士会 埼玉県
年齢 47
勤務先名称 戸田中央リハビリテーション病院

日本理学療法協会活動歴

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2016～現在 職能局 地域包括ケア推進部部員
2018～2023年 職能局 地域包括ケア推進部 部長
2021～現在 職能局 業務推進部部員
2014～現在 南部ブロック 南エリア運営委員

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

埼玉県で地域リハビリテーションに関わり、約10年。地域リハケアサポートセンターの活動や職能局地域包括ケア推進部の部長として、行政や地域包括支援センターの皆様と共に、病院所属の理学療法士として地域リハビリテーションの現場で活動してきました。介護予防事業や地域ケア会議の現場で日々感じるのは、「理学療法士の力は、病院や施設の中だけではもったいない！」ということです。私たちの専門性は今、制度の枠を超え、地域社会の多くの場面で必要とされています。また、地域にでると地域のニーズを知れる。だからこそ、病院や施設でのリハビリテーションもさらに進化できると確信しています。

私は代議員として、この「現場の感覚」を協会の意思決定に繋げていきたいと思っています。理学療法士が制度にとらわれず社会に貢献し、正当に評価される仕組みを提言し、会員の皆様がどのフィールドにいても専門職としての誇りを持てる組織運営を目指したいと思います。

皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。



氏名 瀧澤 達也
氏名ふりがな たきざわ たつや
都道府県士会 埼玉県
年齢 40
勤務先名称 熊谷総合病院

日本理学療法協会活動歴

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2020年～現在 埼玉県理学療法士会北部ブロック熊谷エリア運営委員
2023年～2025年 埼玉県理学療法士会北部ブロック熊谷エリアエリア長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

私は現在総合病院に勤務し、急性期～生活期のリハビリテーションに従事しております。また、臨床実習指導者講習会ファシリテーターも務めさせていただきました。県士会活動においては、新人の頃から参加し、その後運営委員、エリア長としての立場も務めました。そのような経験の中から、現在理学療法士としていくつか達成していきたいことがあります。①各理学療法士のプロとして必要な知識、技術の水準の底上げ、②各施設間、会員間の繋がり強化、③養成校での教育と各施設での教育の更なる連携です。これらの事は決して一人では成し遂げられないことですが、多くの方々をつながり、それぞれの方の達成したいことと合致する部分を紡いでいくことで、実行していけるものと考えています。そのために、代議員という役割を務めさせていただき、これからの少子高齢社会における理学療法士の変化と深化に挑んでいきたいと考えています。



氏名 田口 孝行
氏名ふりがな たぐち たかゆき
都道府県士会 埼玉県
年齢 55
勤務先名称 埼玉県立大学保健医療福祉学部

日本理学療法協会活動歴

2022年～2023年 日本理学療法士協会代議員（埼玉県）

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2005年～2016年 埼玉県理学療法士会 健康増進部長
2017年～2020年 埼玉県理学療法士会 理事・教育局長
2021年～至現在 埼玉県理学療法士会 理事・副会長（現：教育局、学術局等担当）

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

理学療法士の質向上の必要性が言われており、4年前から日本理学療法士協会（PT協会）による新しい生涯学習制度が確立・運用されています。この制度が5年目を迎え、理学療法士の質を担保したうえで、より学習者（会員）が登録・認定・専門理学療法士を取得・更新しやすい仕組みが検討され、運用されはじめています。この制度は、保健医療福祉専門職として常に最新の知識・技術を患者・利用者に提供するための自己研鑽を促す仕組みであり、PT協会が各自の自己研鑽を保証してくれる仕組み（会員の質保証）であるとも言えます。

2020年の理学療法士作業校養成施設指定規則改正により、臨床実習指導者要件や専任教員要件も明確に定められ、理学療法“教育”の質も求められています。また、日本理学療法学会連合の学術（研究）活動によりエビデンス構築も活性化しております。このような理学療法士の質向上の仕組みを基盤として、処遇改善・向上への働きかけも活発になっています。

しかし、生涯学習制度には、5年未満会員の学術活動への参加者減少、各称号の診療報酬への関連付けなどの改善点や課題はあると思います。また、コロナ禍以降、PT協会への入会率が減少してきていることも懸念事項としてあげられます。

私は、社会からの要求、PT協会の最新の動向を把握しつつ、埼玉県理学療法士会の立場も踏まえ、会員の皆様方との交流、情報交換を通して、特に理学療法教育・学術分野における活動促進に貢献できるよう会員の皆様の声をPT協会に届けたいと思い、代議員に立候補しました。



氏名 渡邊 雅恵
氏名ふりがな わたなべ まさえ
都道府県士会 埼玉県
年齢 58
勤務先名称 さいたま市立病院

日本理学療法協会活動歴

平成28年～現在 日本理学療法士協会代議員
令和元年～令和6年度 日本理学療法士協会代議員理学療法士労働環境委員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成元～3年度 神奈川県理学療法士会 老人福祉部 部員
平成3～6年度 埼玉県理学療法士会 事務局 老人福祉部 部員
平成18～22年度 埼玉県理学療法士会 復職支援システム検討委員会委員長
平成23～26年度 埼玉県理学療法士会 理事（事業局長）
平成27～30年度、令和3年度～現在 埼玉県理学療法士会 理事（副会長）

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

このたび代議員に立候補いたしました渡邊雅恵と申します。平成元年に理学療法士になり様々な種類の施設を経験し、現在は急性期病院で周産期・小児専門の理学療法に従事しています。

県士会の活動としては、平成18年に復職支援システム検討委員会委員長を拝命し、臨床を離れている会員に対して復職のための研修会や全会員向けにメンタルヘルス研修会を開催しました。平成23年からは事業局長として、埼玉県民や他団体に向けての公益的な研修会等をおこなう部署を担当しておりました。平成27年度から30年度、令和3年度から現在まで副会長を担当し、県士会の運営や会員の方々の横の繋がり強化、他職種との連携について日々精進しております。

代議員を平成28年から経験させていただきましたが再度立候補させていただき、会員の皆様の声を協会に届けること、協会から得た情報等を吸収し県士会で情報共有し、会員の協会離脱課題や県士会員組織強化について検討し、理学療法士の立場や県士会を更に発展させられるよう努力してまいりたいと思います。よろしく願いいたします。



氏名 染谷 和久
氏名ふりがな そめやかずひさ
都道府県士会 埼玉県
年齢 48
勤務先名称 霞ヶ関南病院

日本理学療法協会活動歴

2020年～現在 日本理学療法士協会 代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2021年～現在 日本予防理学療法学会 評議員
2021年～現在 日本理学療法管理学会 評議員

立候補の趣旨

地域共生社会の実現に向けて、理学療法士には多くの役割が期待されています。他方、医療介護分野における理学療法士の処遇は、向上しつつあるものの、依然として厳しい状況にあります。社会におけるニーズに対して理学療法士が適切に応じることが重要であり、その重要性和専門性を広く社会に伝え、理学療法士の社会的認知と評価を高めていく必要があります。

我々の基盤である医療・介護における質の向上に加え、地域から求められる新たな役割への対応も求められています。具体的には、予防や保健への関わりを深め、地域におけるリハビリテーション活動の要としての役割を果たすことです。学校保健や母子保健といったライフステージ全般への関与、企業における健康経営の推進、リハ専門職が不在の介護事業所や予防事業等を担う行政職への支援、地域住民への働きかけや後方支援など、保険制度の枠を超えて活躍の場を広げていくことが重要です。

私は（公社）日本理学療法士協会事務局へ2013年より2年間出向し、診療報酬・介護報酬・地域支援事業に関する業務を担ってきました。その後も、介護保険分野におけるリハビリテーションのあり方や地域リハビリテーション支援体制の構築など、地域包括ケアに資する研究事業や教育啓発等に従事しております。これら経験を活かし、社会的ニーズに応える理学療法士の新たな役割の創出・拡大、そして適正な評価の獲得に向けた協会事業がより充実するよう努めて参ります。

ご支援の程、よろしくお願いいたします。



氏名 赤坂 清和
氏名ふりがな あかさか きよかず
都道府県士会 埼玉県
年齢 59
勤務先名称 埼玉医科大学保健医療学部

日本理学療法協会活動歴

2003-2006 研修部部員
2005-2006 学術誌部部員
2007-2008, 2014-2025 (現在に至る) 代議員
2014-2020 ガイドライン・用語策定委員会委員
2017-2018 2020オリ・パラ理学療法育成検討小委員会委員
2014-2020 日本運動器理学療法学会運営幹事
2014-2020 日本スポーツ理学療法学会運営幹事

都道府県理学療法士(協)会活動歴

2001-2002 理事、渉外局長
2003-2004 理事、広報局長、埼玉理学療法学編集委員長
2005-2006 理事、事業局長
2007-2008 副会長
2011-2012 理事、広報局長
2019-2024 理事、教育局長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2021-2025 (現在に至る) 理学療法標準化検討委員会委員長
2021-2025 (現在に至る) 日本運動器理学療法学会理事
2021-2024 日本スポーツ理学療法学会理事
2024-2025 (現在に至る) 日本筋骨格系徒手理学療法学会理事

立候補の趣旨

埼玉医科大学の赤坂清和でございます。理学療法士は、診療報酬や理学療法士の生涯学習、理学療法士養成教育、理学療法士の身分向上、理学療法学の学術の推進など多くの新しい課題を抱えている状況であります。これらの諸問題に対して微力ではあります。皆さまからのご指導ご鞭撻をいただきながら、課題の解決に向けて取り組んで参りたいと考え、2026年日本理学療法士協会代議員選挙に立候補させていただきました。よろしくお願い申し上げます。



氏名 三宮 将一

氏名ふりがな さんみや しょういち

都道府県士会 埼玉県

年齢 43

勤務先名称 赤心堂病院

日本理学療法協会活動歴

2018年～現在 日本理学療法士協会 代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2011年～2015年 埼玉県理学療法士会 北部ブロック 運営委員
2014年～2015年 埼玉県理学療法士会 北部ブロック 熊谷エリア長
2017年～2018年 埼玉県理学療法士会 職能局 業務推進部長
2020年～現在 埼玉県理学療法士会 理事（広報局長）

学会連合及び同連合会員団体活動歴

なし

立候補の趣旨

この度、日本理学療法士協会代議員へ改めて立候補をさせて頂きました。
三宮（さんみや）と申します。
現在、県士会では理事（広報局長）の役職に就かせて頂いております。
日本社会は今、まさに更なる高齢化社会へ向かっている状況です。
日本理学療法士協会や各県士会が担う役割も多岐に渡っています。
また、各事業において様々な重責を日々担っていると思います。
これからの国民への付託に応える為にも理学療法士が関わる事が年々増えています。
協会の年齢構成は20代・30代の若手が大半を占めています。
ただ、知名度だけではなくしっかりと自分達の職業意識をさらに高める必要もあります。
また、医療業界における「働き方改革」での賃金アップの必要性。
今よりさらに子育て世代の働きやすい環境設定は必要です。
その事も踏まえて関係各所への我々理学療法士の「処遇改善も含めた働き方」についてさらに推し進める事も大切であると思います。
引き続き、皆さまのお役に立たせて頂ければと思います。
どうぞ、宜しくお願い致します。



氏名 吉川 和幸
氏名ふりがな よしかわ かずゆき
都道府県士会 埼玉県
年齢 37
勤務先名称 公益財団法人 日本小動物医療センター

日本理学療法協会活動歴

2025 - 日本理学療法士協会 動物に対する理学療法推進検討部会 部会長
2021-2023 日本理学療法士協会 動物に対する理学療法部門 運営幹事

都道府県理学療法士（協）会活動歴

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

社会的変革は個人の情熱だけでは実現せず、現場の課題を制度的判断につなぐ仕組みが必要です。代議員は総会において、議案の賛否を通じて協会の意思決定を担います。私は議案を「目的・安全性・成果・費用・評価」の観点で構造化し、賛否とその理由を明確に示します。

新領域への挑戦が誤解を招きやすい時代だからこそ、「誰のための価値か」、「安全に提供可能か」を最優先とします。私は動物に対する理学療法に従事しており、動物が歩けない、起き上がれないといった「暮らしの困難」が、動物自身だけでなく飼い主の生活にも直結する現場を日々経験しています。人で蓄積された理学療法の知識と技術が持つ可能性を動物医療に適切に役立てることで、動物と飼い主の大切な暮らしの質の向上に確かな形で貢献できると考えています。その上で、異分野臨床と研究に基づく経験から、役割境界、合意形成、品質保証の重要性を踏まえ、①安全と役割が明確な協働施策の推進、②根拠に基づく説明と修正を前提とした判断、③教育要件・評価指標・改善機構を備えた事業を優先的に支持することを約束します。



氏名 菊地 裕美
氏名ふりがな きくち ひろみ
都道府県士会 埼玉県
年齢 41
勤務先名称 医療法人社団愛友会 介護老人保健施設 一心館

日本理学療法協会活動歴

都道府県理学療法士（協）会活動歴

災害対策委員会 委員長	(2017年10月～2021年5月)
運営基盤検討委員会 委員長	(2021年6月～至現在)
組織運営 担当理事	(2021年6月～2025年5月)
事務局長	(2025年6月～至現在)

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

私はこれまで埼玉県理学療法士会において、災害対策委員会委員長として災害時支援体制の整備や人材育成、多職種連携の構築に取り組んでまいりました。近年、自然災害が頻発する中、被災地での生活再建や健康支援に理学療法士が果たす役割はますます大きくなっており、平時からの備えと、組織として迅速に対応できる体制整備の重要性を実感してきました。

現在は事務局長として県士会運営全体に携わり、事業運営や各部局の連携調整を行う中で、病院・施設・在宅・地域など多様な現場で働く皆さまの声に触れる機会を多くいただいています。理学療法士の役割が広がる一方で、働き方、人材育成、地域連携、会員同士のつながりなど、現場には多くの課題が存在しています。

代議員として、地域で活動する会員の声を丁寧に拾い上げ、協会の議論や制度へ反映させる役割を担うとともに、理学療法士が社会から必要とされ続けるための環境づくりに貢献したいと考えています。また、世代や領域を超えて、さまざまな会員が「自分のこれから」にも希望を持ち、協会活動に参加したくなる組織づくりも重要な課題と捉えています。

皆様のご意見を大切にし、ともに理学療法士の未来を築いていきたいと考えております。よろしく願いいたします。



氏名 馬崎 昇司

氏名ふりがな ばさき しょうじ

都道府県士会 埼玉県

年齢 43

勤務先名称 霞ヶ関南病院

日本理学療法協会活動歴

2024年～現在 日本理学療法士協会 代議員
2025年～現在 日本理学療法士協会 理学療法士労働環境委員会 委員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2013年 第22回 埼玉県理学療法学会 準備委員長
2015年 第24回 埼玉県理学療法学会 相談役
2012年 埼玉県理学療法士会 学会評議員（～2015年）
2023年 埼玉県理学療法士会 理事（職能委員会担当）（～2025年）
2025年 埼玉県理学療法士会 副会長（～現在）

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

私は現在、川越市の霞ヶ関南病院でリハビリテーション部長とグループ本部副本部長を務め、入院・在宅の臨床現場に立ちながら、法人全体の組織運営にも携わっています。埼玉県理学療法士会では2006年からブロック運営や医療保険部員として活動を続け、2023年には職能委員会担当理事として、能登半島地震の災害支援に従事しました。昨年からは副会長として、各ブロック間の連携強化や組織力向上に取り組んでいます。協会では2023年より代議員を務めるとともに、労働環境委員会の委員として、会員の皆様が置かれている実態把握に努めています。前回の診療報酬改定では、一定の処遇改善はなされたものの、私たち理学療法士を取り巻く環境は、給与面をはじめ依然として厳しい状況が続いています。協会員の平均年齢は比較的若く、人材育成と組織力強化は私たちの大きなテーマです。私はこうした課題に真正面から向き合い、埼玉県士会の理事として、また協会代議員・労働環境委員としての経験を活かし、理学療法士という職業をより魅力あるものにしていきたいと考えています。具体的には、会員相互のつながりを強化し、各施設での優れた取り組みを共有しながら、「生涯学習の推進」や「理学療法士の職域拡大」のために尽力してまいります。若い会員の皆様がやりがいを持って働きながら、理学療法の質向上を目指す環境づくりに全力で取り組んでまいります。会員の皆様と共に歩み、共に成長していきたい。その想いで立候補いたしました。ご支援の程、どうぞよろしくお願いいたします。



氏名 高倉 保幸

氏名ふりがな たかくら やすゆき

都道府県士会 埼玉県

年齢 62

勤務先名称 埼玉医科大学保健医療学部

日本理学療法協会活動歴

2015年～2018年：検証資料小委員会委員
2015年9月～2021年：がん理学療法部門運営幹事（代表）
2024年～：代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

1999年～2001年：学術局研修部長
2001年～2005年：理事・学術局長
2003年～2007年：臨床実習教育部長
2003年～2007年：学会評議委員会委員長
2011年～2015年：公益社団法人検討委員会委員

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2021年～2023年：日本がん・リンパ浮腫理学療法研究会理事長
2023年～現在：日本がん・リンパ浮腫理学療法学会理事長
2023年～現在：日本理学療法学会連合理事

立候補の趣旨

物価高騰や実質賃金の低下など、社会情勢は急速に厳しさを増しています。その中で、多くの理学療法士が経済的な不安や将来への閉塞感を抱えていることを、私は教育や臨床の現場で痛感してきました。私は代議員として、会員の生活を守り、再びこの仕事に「夢」と「やりがい」を持てるよう、以下の改革を強く提言します。

第一に「会費負担の軽減と適正化」です。給与が上がりにくい現状で、会員のポケットマネー（会費）のみに依存する運営は限界です。協会が独自事業で収益を得るモデルへ転換し、その利益を会員へ還元することで、経済的負担を減らしながら質の高いサービスを提供する体制を求めます。

第二に「努力が報われる職域の拡大」です。従来の枠組みに固執せず、組織を柔軟化して新しい領域へ挑戦することで、理学療法士が社会から正當に評価され、対価を得られる環境を作らねばなりません。「会費を払うだけの組織」から「自分たちの生活と誇りを守ってくれる組織」へ。皆さんが安心して働き、胸を張って理学療法に取り組める未来を作るために、尽力したいと考えています。